

常磐新聞

定部金貳錢（廣五號十二休日曜大祭）
 印刷所本城郡平町長橋町廿五番地

發行編輯人 川崎文治
 發行所 常磐毎日新聞社

刊夕日五十二月八

未練を止めよ (二)

中山雅司

斯く現在の有様を以て將來を卜した事が間違ふ場合亦少しとせず、得意で定めた目的や方針が、實は甚だ不確實で杜撰極まる次第であるとするならば、より以上の確實な目的なり方針の解つた場合先なるを捨てて後なるを採り、そこに何等の未練も執着もないやうにするが、運命の開拓であり出世の導火線である、

所が大低の人にはキツパリした思ひ切りが出来ない進みながら後を振りかへては未練の涙を流さず、捨てた

物を再び拾いたい執着心を起すが凡夫の常である、昔支那に思ひ切りのよい男があつた、一日市に出て財布をばたいて靴を買ひ、之れを肩にして家路に急ぐ途中靴は肩からこつて地上にパタリ、二つに割れる先生物論氣は付いて居るが、後をも見ずにスタ／＼去つたと云ふ、如何にも利慾に恬淡として居る支那詩人にはありそうな話である、

これが普通の人間であつたら何とする先づ駆け寄つて破片と破片を繋ぎ合せて見て愈々駄目だと言ふ事をシミ／＼味ふと共に自棄を起して、破片を散々に碎く

か石でも叩き付つけて、毀れる音まで聞かなければ其場を去らぬであらう、

斯く當然断念める事が何れの點から観ても必要であつてさへ全く痕形なく断念める事が出来難い例へ或る事を断念めたとするもの、心の記憶は到底端的に消ゆる物でない記憶の消えない間は是れに伴ふ感情が發動して、幾多哀愁の念が湧出する、これが全く断念め得られぬ原因である、

「捨てた故郷に未練が残る鳴いてくれるな時鳥」以上の未練が生じ、執着が起り我と我が胸を痛めるのも、また當然の事である(續)

渡邊薬局

平町三丁目
 渡邊政五郎
 (郵便局向)

工處方調劑
 染業藥品

大音堂

建築ペンキ塗
 美術諸看板
 硝子金銀文字
 其他各種

平町四丁目

是非

粹で上品な履物を
 御求めの際は

平町二丁目 (電話一五六番)
 三井履物店

洋食は
 向上軒

平町車場新道通り
 (電話五二三番)

常磐文藝

あはれ心 K 生

赤い唇……
 うるるる眼……
 戀人の幻影が
 俺のつかれた心を
 横切る
 そして時折立ち止つて
 ちつと俺を見つめる……

およよとしてくれ
 俺は倒れそうだ
 併し……
 俺は
 せめてお前の
 幻影をさえ
 捉へ得ればよこのだ
 おゝ幻影……
 あまりに俺の心を
 苦しめてくれるな

大勉強販賣

砂利(コンクリート用)
 中山岩採掘販賣
 石造土木請負業
 其他各種

合資會社
 石材商會
 南町火見下
 店主 鈴木彌米

開業披露

喜樂園子 皿十五錢
 喜樂すし 井三十錢
 散廿五錢

出前は遠近に不拘
 早速お届けします

平館前 喜樂
 電話呼出四四番

地方販賣部

相馬 中村町
 同 原ノ町
 双葉郡浪江町
 同 富岡町
 石城郡植田町

荒井 鐵工場
 岡崎 清吉商店
 染田 三平商店
 島田馬之助商店
 高木 パン店

濱三郡販賣元
 佐藤鐵工場
 コークス部

平町月見町 (電話三六二番)

有給の店員

十名を望みます

初給年六十圓(順次昇給)
 年齢三十四以上より十六七とめ
 尋常卒業以上
 希望者は至急を願ひます

警城平町

大商人をのぞむ方來れ!
 電話六十七番

中野吳服店

一、弊鐵工場が東京瓦斯株式會社産出の瓦斯コークス販賣元を委託されてから茲に滿五週年を閉じました、一、そして益々業務が進展しまして左記濱三郡の地方販賣店と共に繁榮を來すに至つた事は皆様方の御負に依る賜と厚く感謝する處であります、一、其處で弊店は其御禮心にコークスの御買上が十俵に達します毎に有聲座の一等觀覽券を進呈する事としました、一、是非舊に倍する御引立を伏して願ひ上げます。

御設備下さる

文化生活の強敵なる
 恐るべき蠅の撲滅の爲に
 驚くべし一匹のハイは、百參拾萬の
 細菌を保有して居るそうです

蚊とり兼用器 特價
 金四圓五拾錢

專賣のハイトリツク
 平町五丁目(電話長九番、一三九番)

和洋銅鐵
 釜屋商店

丸登株式会社

平町田町 電話三三三番
 川添房二郎

株式賣買中値

左記の値段は日本の標準値に付御用の節は御問合願候

銘柄	拂込	時價
警城銀行	五〇〇	五三・五
平銀行	五〇〇	六八・〇
警越銀行	一一・五	一〇・五
警城實業	五〇〇	四〇・〇
田村實業	一一・五	一一・五
四倉銀行	一七・五	一七・五
農工銀行	二〇・〇	二四・五
同 新	一一・〇	一八・八
同 新	五〇〇	五五・〇
同 新	一一・五	一六・〇
郡山電氣	一一・五	九・八
同 新	二五・〇	三七・五
只見川電	一一・五	一七・五
植田水電	一一・五	七・〇
好間水電	一一・五	一五・五
警城建物	一一・五	一三・〇
警城製菓	二〇・〇	五・〇
平信託	五〇〇	四・〇
警城勸業	一一・五	二五・〇
植田物産	三〇・〇	二六・〇
平製水	二五・〇	二〇・〇
好間軌道	五〇〇	三〇・〇
入山新	三三・五	一七・〇
小田炭礦	二五・〇	五・〇
警城炭礦	五〇〇	四一・〇
同 新	一一・五	一八・〇
警城セメン	五〇〇	六四・五
同 新	三三・〇	四・三
平運送	一一・五	八・〇

火防組合を統一し 煙突の 嚴重に勵行する 掃除を

毎月一回の火防デーを 昨日平署にて協議

平署にては平町各區の火防組合を劃一的に統轄せんが爲昨午前十時から同署樓上に於て協議會を催し規約を一定したが今後は毎月十日及び十五日を火防警戒日と定め組員出勤機宜に適合する方法に依つて警戒の任に當り且つ火防上最も至大の關係を有する煙突掃除を勵行せしむべく石炭燃料の煙突は毎週一回、薪炭燃料は二週間毎に火防組員立會の上にて嚴重なる掃除をなし各組合備付けの煙突掃除台帳に記入する事を決定した由

火星は初夏

黒くなる植物帯 (アリゾナ州フラグスタツフ合同廿三日發) 火星は今地球を距る三千里六百六十萬哩の所迄接近した。ロウウエル天文臺では能く觀測する事が出来た。最近火星の熱は有機的の生活に相應しいことが明らかになつた。又火星の現在の季節は地球の五月に相當する。火星上の植物帯は以前よりは黒くなりつつあるらしいと

秋蠶の成績

五分增收確實

石城郡内に播下された普通秋蚕は目下四齡三四日で一時的の冷氣で非常に杞憂されたが、飼育期間を通すれば頗る順調なる天候で炎天に際しては當局の奨励により濕布育を行った結果勞力桑葉共に節約する處尠く五分の增收は確實の由

婦女や少年の

坑内労働禁止

各炭鑛は打撃 礦山労働規則が近く改正される筈となつて居るが改正の主要點は坑夫の深夜

米の良否を

判定する様に

平穀物検査所にて去月中取扱つた移出米数は二千三百六十二俵であるが其内純然たる内地米は僅かに二百四十七俵に過ぎず、其他の二千五百俵は混合米、また臺灣



家庭

あげの恰好

子供の着物は肩あげと腰あげの具合で恰好がきまります。肩あげは、普通ならば後身巾の真中を折山として

米が五俵といふ割合であつて需要者が米屋から供給される場合朝鮮米と臺灣米とが明示されず悉く内地米として賣買されて居る有様であるから需要者の方で自覺し一見して米の良否を判定する様になつほしいと

「近盛」と「鶴仙」が優等

清酒品評會の結果

けふ稅務署樓上にて舉式

石城酒造組合主催酒造講習會證書授與式は廿五日午後二時から平稅務署樓上に於て舉行、會長持館稅務署長

石城郡に於ける不就學兒童は約五百名であつて貧窮のため通學出来ぬ者は約百廿五名であるがこれ等は這般長くも御下賜になつた東宮殿下御成婚紀念不就學兒童獎勵金第一回救濟金の交付を不日受くる筈

不就學兒童

救濟金を交付

石城郡に於ける不就學兒童は約五百名であつて貧窮のため通學出来ぬ者は約百廿五名であるがこれ等は這般長くも御下賜になつた東宮殿下御成婚紀念不就學兒童獎勵金第一回救濟金の交付を不日受くる筈

賊は白痴男

二益に忍んで

先夜平町新田町料理店三益に賊を働かんと侵入した男は平町舊城跡吉田善福(三三)絶ひ上げると、頂度恰好がよくできます。しかしあまり肩のいかつた子供の、それより少し背の方へよつた處を山にした方がよろしいです。腰上げも身頃丈の真中を折山とします。但し丈が長くてあげの澤山ある場合は、今少し上によつたところを折山にします

と稱する白痴少年の處爲と判明平署にて取調中

郡長行政監視

水野 石城郡長は藁谷、松崎兩書記を隨へ廿五六兩日は小名濱、廿七八の兩日は永戸村廿九廿の兩日は澤渡村の行政監視を行ふ由、

無燈火自轉車

平署にて去る廿三日の夜間三夜藥師祭禮雜踏に際し無燈火自轉車の特別取締を執行せる結果本日告發されしもの十八件あつた由

不平受付

投書歡迎

人力車の横暴 道を避ぬとて背後から來る人力車に突然怒鳴り付けられ驚かさるゝことが度々あります。天下の公道を歩ゆんで居るのに背後から怒罵を浴せかけるとは甚だ怪しからぬと思ひますから御注意を願ひます (憤慨生)

憤慨生

△伊藤署長の答 轎子が道路通行人に避けしむる法律上の權利がある譯ではなく唯徳義上の問題なのですから怒鳴り付ける様な事は甚だ穩當でない機會があつたら注意を加へて置きます

競争激烈な

町現業委員

當選者決定

常盤線平方に於ける鐵道現業委員選舉は既報の如く頗る激甚を極めたが廿三日水戸運輸事務所に於て開票の結果左の如くである

- ▲平驛 定員二名
當選 四一 黒澤華三郎
同 四五 佐々木伊勢造
▲平檢車所 定員一名
當選 四一 佐藤長治
▲乘務員定員 一名
當選 六七 直井正義
▲小及び高萩機關庫 定員 四名

災害防止

平町役場から

平町にては災害其他の事故防止に關し伊坂町長より谷町に左記の通牒を發した

- 當選 八一 橋久左工門
同 六九 中島久壽
同 五四 大樂蜂次郎
同 五一 小田貞美
次點 五〇 鈴木金明

關東震災の

慘死者追悼

磐城俠政會が

磐城俠政會にては來月一日午前十一時五十八分を期し關東大震災慘死者追悼會を長橋町性源寺に於て執行する由

縣參歡迎協議

縣參事會の一行は既記の如く出

納検査の爲め卅一日來平する筈である爲歡迎會を催さんと本日午後一時から平町役場に伊藤署長、遠藤首席郡書記其他參集協議した

ヒロイモノ

△平町田町管野金松氏は廿四日白銀町にて金腕時計

△同町大工町廣田惣吉氏は廿二日好間村町田にて銀煙

管一本△同町田町石坂トシ

子は廿日同町にて萬年筆一

本△飯野村伊藤藤松氏は十

九日三丁目にて洋傘一本△

平町大館高木一郎は三丁目にて懷中時計△才樋小路鈴木キヤ子子は十六日新田町に

平町人事

出生

△白銀町 中島久藏氏次女 久子
△月見町 根本平人氏長男 眞一
△古鍛冶町 佐藤豊次郎氏次女 晴子
△五丁目 大河内政吉氏四女 芳子

婚姻

△茨城縣鹿島郡德富村 瀧野山藏
(三三)新屋町 松本ヨネ(〇〇)

死亡

△新川町 當時石城郡上遠野村鈴木タカ(六六)